

黒部商工会議所の建替について

黒部商工会議所は、築56年が経過した現在の会館（昭和44年竣工）を建て替え、新たな課題に対応するとともに、会員のみならずが利用しやすく親しまれる、黒部の新たな商工業の拠点を目指します。

【現会館の課題】

- 老朽化が著しく、耐震性がない。（能登半島地震で被害を受けた）
- 会議室は、規模・数・機能ともに不十分で、研修会や説明会は有料の公共施設を使わざるを得ない。
- 個別の経営相談のための相談室が不足し、プライバシーの確保や取引情報の守秘が困難。

【新会館の目指すもの】

人口減少と市場縮小という構造的な課題に地域経済が立ち向かうため、新会館は次の役割を担います。

- 人手不足、生産性向上、販路開拓といった、より高度化・複雑化する経営課題の解決に向けた支援。
- 会員同士、そして地域や世代を超えた様々なヒト・モノ・情報をつなぐハブ（拠点）となり、新たな価値やビジネスの創造を目指す。

事業概要

- ・建設地 黒部市植木地内（現会館敷地及び西側市有地）
- ・構造 鉄骨造2階建（事務室、ロビー、大中小会議室、相談室、応接室、テナント等）
- ・床面積 723.2㎡（1階456.5㎡、2階266.7㎡）
- ・工期 令和8（2026）年4月から令和9（2027）年2月まで
- ・事業費 約4億2千万円（税込）※令和7年6月時点
（新築工事、現会館解体工事、設計監理費、調査測量費、仮事務所経費、備品費等）

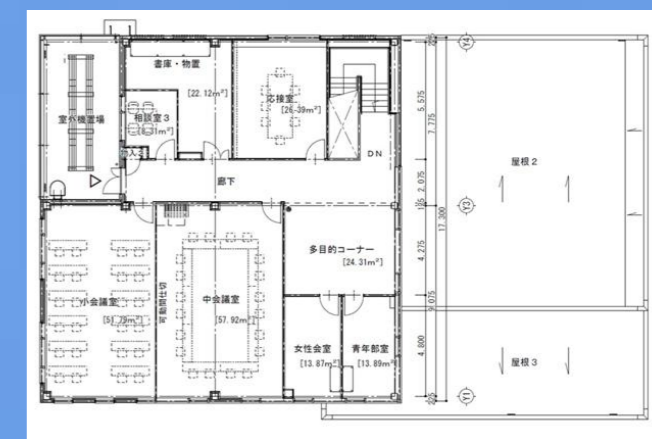
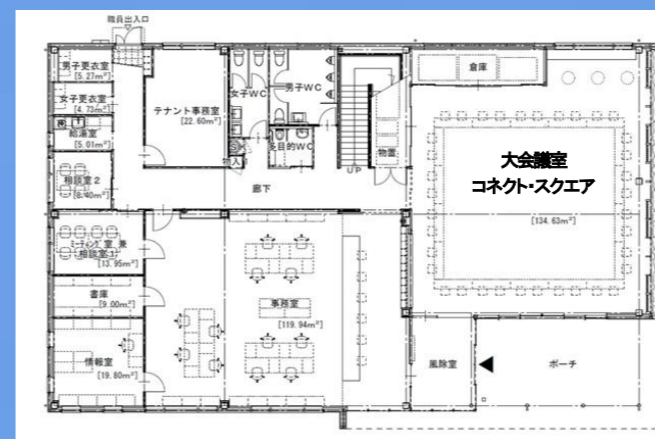


新会館の特徴



- 隣接するパッシブタウンとの連続性を意識した洗練された街並みを形成。
- 黒部の産業を代表するアルミ建材をPRするカーテンウォールと木格子のリズム感が印象的なデザイン。
- 透明感のある開放的な雰囲気により、フラットと気軽に立ち寄りたくなる外観。

- 会員同士で、そして地域や世代を超えてヒト・モノ・情報が「つながる広場」として、新たなビジネスや価値を創造。
- まちに開かれた一体的な空間が、活動を地域につなぐ結節点となり、地域経済の中核・拠点を担う。
- 建物内外と各部屋の2段階セキュリティと運用のデジタル化により利用の期日や時間に柔軟に対応。



計画の実現のために

本計画は、現会館の課題を解消し、会員のみならずの真に役立つ商工会議所を目指し、必要最小限、しかし今後のサービスの提供には欠かせない機能を確保すべく検討を重ねたものです。

計画の実現には、多額の費用を要し、富山県及び黒部市から補助金を受ける予定ですが、会員のみならずのご協力が不可欠です。

今後、建設協力金についてお願いをさせていただきますが、黒部の未来を拓く半世紀に一度のこの大事業に会員のみならずのご理解をなにとぞ賜りますようお願い申し上げます。